

事業報告

〔平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで〕

I 当法人の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

当法人は、「人間と遊び」という視点に立った科学技術の振興に関する事業を行い、ゆとりと活力のある社会の構築に貢献することを定款に定める目的としております。

当事業年度は、この公益目的に適う調査・研究・開発の推進及びこれらの助成、国際交流の助成並びに普及啓発の分野において、積極的に事業に取り組んでまいりました。

この結果、費用面につきましては、103,267千円(前年度比123.68%)、うち公益目的事業費は82,544千円(前年度比119.90%)、法人管理費は20,723千円(前年度比141.48%)となりました。

一方、収益面につきましては、基本財産の株式配当は前年度と同一水準で維持されましたが、事業安定基金及び資産活用基金につきましては、金融情勢が一段と厳しさを増す中、公益事業の存続をかけて安全性に配慮しつつも積極的な運用に努めた結果、経常収益は91,515千円(前年度103.59%)となりました。

これらにより、経常費用は経常収益を11,752千円上回りました。

当事業年度経常増減額は、11,752千円に、保有株式等基本財産の評価損500,650千円及び特定資産の評価損益等130,745千円を合算して643,147千円の減額となりました。

これらの結果、正味財産期末残高は、2,646,886千円(前年比80.45%)となりました。

主要事業別の経過及びその成果は、次のとおりであります。

【調査研究事業】

調査研究事業は、定款第4条第1項第1号の目的である財団自らが能動的に解決又は実現を図るべきと思料する、「人間と遊び」という視点に

立った科学技術に関する調査、研究及び開発の推進に関する事業であります。

① 平成 26 年度からの継続事業

なし

② 平成 27 年度の新規事業

調査研究の課題設定は、学識経験者からなる企画委員会によっても手詰まり感があり、近年は助成研究の応募テーマとの差別化も困難となつてまいりました。このため、昨年度より一般公募により優れた研究テーマを発掘し、これを研究課題として研究者を募集することとしました。

この方針に基づき、一般公募は「社会を変える『夢のゲーム』アイデア」として実施し、971 件の応募作品中 14 件を表彰、内 2 件を調査研究課題に設定して研究者を募りましたが、残念ながら応募者は得られず、平成 26 事業年度調査研究の新規事業は断念しました。

しかしながら、多くの作品から選抜された優秀なアイデアでありますので、これを有効活用すべく全国の 28 専門学校に対して、前記 14 テーマ全てを研究課題に選択可能として調査研究の受託を勧誘したところ 2 校の応募がありましたので、従来通り企画委員会及び選考委員会の審査を経て、本年事業年度の事業とすることを理事会で最終承認、各採択者との間に研究委託契約を締結のうえ研究費合計 1,500 千円を提供いたしました。

氏名 所属・肩書	研究課題	希望 期間	研究費
小山幸彦 沼津情報ビジネス専門学校 ゲームクリエイト科 教諭	振り込め詐欺に気を付けて！ (振り込め詐欺対策ゲーム)	年 1	千円 1,450
山田 慎 名古屋工学院専門学校 ゲーム総合学科 教諭	りぼっと (リサイクル志向のゴミ拾いアクションゲーム)	1	50
合 計			1,500

【研究助成事業】

研究助成事業は、当法人の中核となる事業であり、助成目的別に次のように分類されます。

- ・定款第4条第1項第2号の目的である「人間と遊び」という視点に立った科学技術に関する調査、研究及び開発に対する助成。
- ・定款第4条第1項第3号の目的である学会・研究会活動及び国際交流に対する助成。

(1) ゲームの分野の研究に対する助成（助成研究 A）

① 平成 26 年度からの継続事業

助成研究 A のみは複数年度の研究を助成できますが、希望した 6 組について研究者から事前に提出された中間報告書に基づき、選考委員会を開催して中間評価を行い、下表の 5 テーマについて継続助成することとし、理事会の最終承認を得て合計 7,100 千円を助成しました。

現在第 2 年度の研究を継続しております。

氏名 所属・肩書	研究課題	助成額
森島繁生 早稲田大学先進理工学 教授	キャラクタの個性を演出するための分析・制作支援システムの開発	千円 1,500
勝又壮太郎 長崎大学 経済学部 准教授	ゲームを取り巻く企業と消費者の社会的相互作用	1,000
L. B. Wellington 京都大学大学院 医学研究科社会健康医学系専攻 博士課程	高 HIV 流行国スワジランドにおける HIV 啓発のための serious game の開発とランダム化比較試験によるその効果評価に関する研究	2,000
伊村知子 新潟国際情報大学 情報文化学部 講師	競争的な買い物ゲームにおける子どもの価値判断と意思決定に関する行動経済学的研究	1,000
大澤博隆	人狼知能の開発	1,600

筑波大学 システム情報系知能機能工学域 助教		
合 計		7,100

② 平成 27 年度新規事業

重点研究と基礎的・基盤的研究に分類して助成することとし、7 月に当法人のウェブサイトに募集案内を掲載すると共に、全国の大学、高専、国公立研究機関等 413 組織に募集案内を送付する外 40 の学会に依頼して当該学会のウェブサイトにも掲載するなどして幅広く募集を広報しました。

(A-1) 重点研究（ゲームを超えたゲームⅡ）

昨年度に引き続き、既存のゲームという枠組みを超えて広がる新しい時代に向けたゲームに関する多様な研究への支援を行うこととしました。

これに伴い、本重点研究では、ゲーム以外の領域とのコラボレーションに基づく独創的な研究を歓迎することとしております。

32 組の応募があり、外部の学識経験者からなる 10 名の選考委員が事前審査及び本審査を行い、次の 7 組に対して、合計 10,500 千円を助成しました。

氏 名 所属・肩書	研 究 課 題	希 望 期 間	1 年目 助 成 額
大柳俊夫 札幌医科大学 医療人育成センター 准教授	国際共同による注意機能訓練ゲームの開発と臨床応用	2	2,000
藤本 徹 東京大学 大学総合教育研究センター 助教	創造的なキャリア教育支援のためのシリアスゲームの開発	1	2,500
舛本大輔 三重大学大学院 医学系究科 大学院生	小児がん患者に対する長期フォローアップに関する研究 ーデジタルツールの評価と応用ー	1	500

森本有紀 東京電機大学 未来科学部 講師	手描きアニメの個人制作支援の研究	1	800
飯田和敏 立命館大学 映像学部 教授	複数のオープンビッグデータを活用したゲームコンテンツの作成、及び本ゲームプレイの直接的または間接的な公共性への作用に関する研究	1	2,000
李 皓 静岡大学 情報学部 准教授	少子化現象と対策について学ぶカードゲームの制作	2	700
三浦政司 鳥取大学大学院 工学研究科 助教	ゲームデザインプロセスの応用によるエージェントベースモデリングのための対話手法の開発	2	2,000
合 計			10,500

(A-2) 基礎的・基盤的研究

研究テーマは、「ゲームの本質に関する研究」、「ゲームと人間に関する研究」、「ゲームと社会に関する研究」及び「ゲームと技術に関する研究」と前年度と同様に幅広く設定して助成することとしました。26組の応募があり、助成研究(A-1)と同様の審査手続きを経て、次の8組に対して、合計12,600千円を助成しました。

氏名 所属・肩書	研究課題	希望期間	1年目 助成額
池原忠明 首都大学東京 東京都立産業 技術高等専門学校 准教授	ゲーム特性を生かした健康保持や体力向上装置の開発	1	千円 700
中村 仁 日本経済大学大学院 経営学研究科 准教授	女性向けゲーム市場における企業と消費者の共進化に関する研究	1	800
中村隆之	ゲームデザイン研究・教育のためのオ	2	2,500

神奈川工科大学 情報学部 特任准教授	オープンソースゲームの開発の研究		
鈴木真奈 京都大学 文学研究科 博士後期課程	日本のホームエレクトロニクス思想 とビデオゲーム	1	200
谷中俊介 神奈川工科大学大学院 工学研究科 博士課程	VR 酔いの検出に応じて角速度と画 角を動的に制御する VR システムの 開発	1	2,000
小泉直也 東京大学大学院 情報学環 特任研究員	カードゲームにおける空中像インタ ラクションの研究	1	2,000
尾鼻 崇 中部大学 人文学部 助教	「乙女ゲーム」のゲームデザインに関 する総合的研究	1	400
Kai Kunze 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 准教授	Eyewear for Gaming	1	4,000
合 計			12,600

研究期間及び研究費は第 1 年度のみでの決定とし、第 2 年度は、選考委員会が継続の可否を中間審査して、可とした場合にはその金額を決定して理事会に答申したうえで、理事会が平成 27 事業年度予算として決定することとなります。

(2) 「人間と遊び」に関する研究に対する助成（助成研究 B）

研究テーマは、「遊びの本質及び影響に関する研究」、「遊びの社会的諸活動への応用に関する研究」及び「助成研究 A 又は B のいずれの課題にも属さない『人間と遊び』の研究」とし、事実上人間と遊びをテーマにした研究であればどのような専門分野からでも応募でき

るように配慮しました。

38組の応募があり、助成研究Aと同様の審査手続きを経て、次の10組に対して、合計7,600千円を助成しました。

助成研究Bの研究期間は、単年度のみであります。

氏名 所属・肩書	研究課題	助成額 (希望額)
山之内 幹 鹿児島県立加治木養護学校 中学部 教務主任	障がい者と健常者をつなぐレクリエーションゲームの開発と汎用化	500
柴里弘毅 熊本高等専門学校 教授	重度重複障害がある児童生徒のための分身ロボットを通じた遊びの開発	1,000
田中千晶 桜美林大学 総合科学系 准教授	幼児の外遊びおよび室内遊びにおける身体活動強度	800
川田和男 広島大学大学院 教育学研究科 准教授	遊びながら社会性を育むためのアクティブ・ラーニング支援教具の開発	900
藤波香織 東京農工大学大学院 工学研究院 准教授	身の回りのモノを直接用いたデジタルペインティングによる創造性発揮支援	1,000
磯山直也 青山学院大学 理工学部 助教	演技・踊りを自然に遊ばせるシステムの開発	900
山本喜晴 関西国際大学 人間科学部 准教授	ゲームへの親和性とイメージの投影傾向との関連	650
中村美恵子 東京藝術大学	生物の形態と振る舞いから学ぶ遊び心の誘発	750

芸術情報センター 芸術情報研究員		
高見友幸 大阪電気通信大学 総合情報学部 教授	摩訶大将棋の復刻および大型将棋の歴史に関する研究	450
松浦昭洋 東京電機大学 理工学部 准教授	プレイフルなデジタル絵本システムの開発	650
合 計		7,600

(3) 国際交流（参加）の助成

国際交流の助成は、本事業年度から年2回募集することとしました。応募資格は、具体的に発表等の予定がある等、応募者が主体的な役割を持つもので、第1回目は平成27年12月1日から平成28年5月31日までの間に開催されるものに参加する場合としております。3組の応募がありましたが、助成研究A及びBの本審査以降とまったく同一の手続きを経て、次の2組を採択し、助成金合計440千円を提供いたしました。

氏名 所属・肩書	会議等の名称 開催期間・場所	仮助成額 (希望額)
清水康二 奈良県立橿原考古学研究所 主任研究員	The Board Game Studies 2016 2016年4月13日～16日 The German Games Archive Nuremberg	240
林 志修 東京大学大学院 大学院生	2016 IEEE ISCC International Symposium on Creative Computing March 29th-April 1st, 2016 Exeter College, University of Oxford Oxford, England	200
合 計		440

【普及啓発事業】

普及啓発事業は、定款第4条第1項第4号の目的に関する事業であり、当法人が自ら主体的に行う「調査研究」及び当法人が助成して研究者が行う「助成研究」の成果を、広く一般に公開しその普及を促進する事業であります。

① 研究成果の発表会

平成25事業年度調査研究及び助成研究の成果を「第22回研究成果発表会」として、9月25日に外部会場において終日開催いたしました。

全国から気鋭の研究者が参集し、当該年度の研究完成者20名中18名が口頭発表8名とポスター発表10名に分かれて熱心に発表しました。研究分野別内訳は、調査研究：2名、助成研究A：10名、助成研究B：6名であります。口頭発表者もポスター発表を併せて実施したため、80名を超える来場者は各発表者と熱心に質疑応答を行い盛況でした。

又、当法人 評議員 稲見 昌彦 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授（現東京大学大学院情報学環教授）による講演「超人スポーツを創ろう」を実施し、最先端の研究・実践活動の内容を興味深くお話しいただきました。

発表会終了後は、立食形式で交流会を実施し、研究者相互のみならず多様な参加者が有意義な交流を行いました。

② 人間と遊び（財団レポート2014）の発行

平成26年9月に7年ぶりに装いも新たに復刊した「年報」は、当事業年度も人間と遊び（財団レポート2014）として9月に発行しました。当法人の特質の一つは、研究成果を社会に還元してきたことであり、情報提供の確かなツールとして今後も毎年継続して発行してまいります。

内容は、すべての調査研究と助成研究の成果を読みやすい概要書として収載したことに加えて、事業計画や事業活動のあらましを含む当法人の概要等の情報を親しみやすく纏めたものになっています。

③ ウェブサイトの高度情報化

当法人のウェブサイトは、当法人の活動を広報すること並びに業務

機能を補完し効率化すること、という異なった二つの目標を達成するため、平成 25 年 4 月に全面リニューアルし現在に至っております。

当法人の紹介・財団の事業・トピックス・公開情報など盛り沢山の内容を毎月更新して新鮮な情報を提供してまいりましたが、2 年を経過してコンテンツに鮮度感が薄れてまいりましたので、12 月に中規模リニューアルを実施して情報発信力を高めました。

年報「人間と遊び」に掲載した研究成果の概要は当法人ウェブサイトでも公開し、一定の条件の下に誰でもがその成果を利用することをできる体制を構築しておりますが、今後は一般の人々にもより興味深くお読みいただける内容とするなど、当法人の事業を社会一般に周知すべく活動してまいります。

一方、調査研究や助成研究の、募集、応募、審査、通知、報告等をほぼ一貫してウェブ上で行うことにより、研究者と当法人のコミュニケーションツールとしても大きな役割を果たしており、事務能率の向上と迅速化に威力を発揮しております。

【公益目的事業の直接経費の計画と実績】

以上の公益事業費の内、研究費を中心とした直接経費のみについて、予算と実績を比較すると次表の通りとなります。

単位：千円

事業別	予算額	実算額	達成率 (%)	備考
調査研究事業	9,101	3,054	33.6	5,400～12,600
研究助成事業	35,101	38,414	109.4	
A	24,033	30,258	125.9	14,400～33,600
B	10,033	7,658	76.3	6,000～14,000
国際交流	1,033	498	48.2	600～1,400
普及啓発事業	3,263	3,246	99.5	
合 計	47,465	44,714	94.2	

(注) 備考欄の数字は、基準予算額の上下 40%の範囲を示します。

調査研究の応募テーマと助成研究の応募テーマの双方を比較考量した

うえで、より優れたテーマを採択して研究若しくは研究助成するため、相互の予算を一部共通化し、個々の研究テーマ群ごとに基準値の最大上下 40%の範囲で、弾力的な配分を行うこととしております。

2 資金調達等の状況

- ① 資金調達 : 当期の資金調達はありません。
- ② 設備投資 : 当期の重要な設備投資はありません。
- ③ 事業の譲渡等 : 事業の譲渡等はありません。

3 直前 3 事業年度の財産及び損益の状況

単位：千円

区 分	第 2 期	第 3 期	第 4 期	第 5 期
	平成 25 年 3 月期	平成 26 年 3 月期	平成 27 年 3 月期	(当事業年度)
経常収益	129,994	68,991	88,347	91,515
評価損益等調整前 当期経常増減額	59,704	△19,605	4,854	△11,752
当期経常増減額	233,676	346,378	△542,238	△643,147
正味財産期末残高	3,485,893	3,832,272	3,290,034	2,646,886

4 対処すべき課題

(1) 基本方針

当法人は、公益財団の基本思想に忠実であることを前提としつつ、「行動規範」に定める厳正な倫理に則り、公正かつ適切な事業活動を展開する、という基本方針を引き続き事業活動の中核に据えてまいります。

平成 28 事業年度は、現下の金融情勢悪化に対処して資金の運用を慎重にし、事業規模を圧縮したうえで計画・実施・評価の PDS を回していくことにより、法人の継続性に留意しつつ安定的に事業を実施してまいります。

① コーポレート・ガバナンス及びコンプライアンス・マネジメントの徹底

当法人の公益法人化は、比較的早期に実現したため、当初はガバナンス・システムが概して保守的に設計されておりましたが、精査す

ると強行規定と異なった定めや、屋上屋の定めがある一方、法の要請による必要な定めを欠いている事項もあることが判明したので、平成 24 事業年度以降定款を始めとする主要規定から順次必要な制改定を進めてまいりましたが、平成 27 事業年度は、いわゆるマイナンバー制度の導入に伴い、「文書管理規程」を改定して、当法人の情報全般を統制する「情報管理規程」とするなどの対策を講じました。

平成 28 事業年度は、引き続き日常の事業活動に影響のある規定等について、法の許容する範囲で合理的な柔軟化を図ることを主眼にしつつ、小規模組織で運営する法人に相応しい意思決定システムを実現する一方、決定したルールは、規定の有無に限らず厳密に運用し、コンプライアンス・マネジメントを徹底させてまいります。

② 事業活動の規模に関する戦略

本法人の事業活動の規模は、運用益の範囲を原則とし、基本財産及び基金の取り崩しは原則として行いません。但し、やむを得ない場合は、理事会の承認で実施できる資産活用基金から先ず行います。又、資産の半ばを構成する株式の配当変動に備えて、法の許容する範囲で事業活動に必要な資産を構築していく必要があります。

一方で、現下の金融情勢はまことに厳しいものがあり、財産運用により事業活動の資金を獲得することには、大きな困難とリスクを伴います。

このため、「金融財産の管理運用に関する規則」を厳密に遵守する中で、従来以上に資産の安全な運用に意を用いることを最優先として利益計画を作成し、事業活動の枠組みを決定していく必要があります。

(2) 公益目的事業

当法人の主要な公益目的事業は、調査、研究、開発の推進及びこれらの助成並びに普及啓発の3分野であります。そのすべてが「人間と遊び」というユニークな視点に立った科学技術の振興に関する事業であるため、相互に有機的に関連付けられ、支え合って効果を増大させる必要があります。取り分け普及啓発の分野では、新たに「遊びを通じて子供たちの成長を促す」という視点での取り組みを具現化させてまいります。

又、広い視野で公益活動を展開するという観点からは、単発の助成であっても定款に定めた目的実現に資する企画の実現も必要です。事業の実施に当たっては、限りある資金を有効に生かすため、より有為な使用方法、時宜にかなった研究テーマの設定、公平な助成先の選定等について、ますます工夫が必要となります。

① 調査研究事業

現在わが国には、多くの解決すべき社会問題が存在しておりますが、社会的に重要かつ喫緊の課題であって、「ゲームを用いて、社会の問題を解決する。」ことが可能な研究課題をさらに深耕していくことを当面の基本方針としております。

平成 27 事業年度は、昨年度の「夢のゲーム」研究テーマ応募アイデアの中から入賞者の提案テーマを研究課題に採用して専門学校 2 校に実証的調査研究を委託しましたが、平成 28 事業年度は、「夢のゲーム」公募も 3 回目を数えることになるので、一般の人々のアイデアを基に、研究者の研究意欲を掻き立てるような課題設定とするため、当法人の事業活動の実態にも通暁した学識経験者 7 名からなる企画委員会において、さらに工夫を重ねる必要があります。

② 助成研究事業

当法人の中核的事業であり、広く各層の研究者から助成を期待されているので、公平・公正な審査を通じて、適切な助成活動を行うことが重要であります。そのため、学識経験者 10 名による「選考委員会」の自律的な活動を保証することに意を用いてまいります。助成研究のテーマ設定に関しては、基本的に本事業年度の方針を踏襲し、分野別に次の基本方針で臨みます。

助成研究 A

骨太でゲームの根本に迫る課題に重点化し、研究テーマを細分化せず応募者の研究の自由性を保証します。

助成研究 B

「人間と遊び」をテーマにする広い分野の研究に、まんべんなく助成することによりユニークな研究を引き出します。

国際交流

「コンピュータゲーム」に関する国際交流に参加する比較的若い研究者を支援することとし、年2回募集します。

なお、限りある資金を生かすために、調査研究、助成研究の各事業に関しては、事業予算の基準値に上下40%の範囲で上限値と下限値を設け、相対的により有為な研究に資金を提供できるよう、弾力的な配分を行います。

③ 普及啓発事業

設立以来欠かさず開催している「研究成果発表会」により、調査研究と助成研究の研究者に発表の場を提供すると共に、年報「人間と遊び」の継続及びウェブサイトの刷新による多様な情報発信により、当法人の事業活動及びその成果を広く一般の人々に周知させて利用を促し、もって啓発の効果を高めていくことが肝要であります。

一方では、小中学生を対象として、コンピュータゲームを通じて楽しく遊びながら論理的思考を醸成させることや長期的な観点で人材育成することを目的として、「ゲーム開発体験ワークショップ」を第三者機関である非営利法人の活動を助成する形式で実現させてまいります。

(3) 法人管理事業

当法人の常勤者は2名のみでありますので、法人管理事業についても、優先順位を明確にしたうえで業務の合理化を徹底し、以下の課題に取り組んでまいります。

① 公益活動の広報

広報の多様化による公益活動の周知とこれを通じた質量ともに充実した助成研究希望者の発掘、これらに伴う当法人に対する積極的な評価の獲得を目指します。又、公益活動の展開の中でSR（Social Responsibility）活動にも引き続き目を向けてまいります。

② 法人経理の予実管理

自計化達成に引き続き、予実管理に取り組んできましたが未だ不十分なので、適時実現により経営の効率化、安定化及び資産形成の礎

構築を目指します。

③ 情報管理の徹底

既存情報の整理と、発生する情報の作成・流通・保管・保存・廃棄のルールは明確にしましたが、引き続きこれら情報管理ルールの運用を徹底し、業務効率の向上に取り組む必要があります。

(4) 資金運用

当法人は、事実上事業活動資金の全額を財団の基本財産の配当金及び特定資産である事業安定基金及び資産活用基金の運用利益に依存しております。

従って、基本財産及び両基金の特性に応じた運用により、安全性に配慮しつつ、可能な限り高い運用益を目指してまいりましたが、急激かつ大幅な金融情勢の悪化は、当法人の資金運用にも大きなダメージを与えております。

今後は、出来る限り基本財産等の毀損を招かないよう、従来以上に運用姿勢を慎重にし、これに伴い事業規模を圧縮していくことが必要であります。

5 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
調査研究事業	「人間と遊び」という視点に立った科学技術に関する調査、研究及び開発の推進
研究助成事業	「人間と遊び」という視点に立った科学技術に関する調査、研究及び開発に対する次の助成 助成研究 A： ゲームの分野の研究 助成研究 B： 「人間と遊び」一般に関する研究 国際交流： ゲームに関する国際会議の開催又は参加
普及啓発事業	「人間と遊び」という視点に立った科学技術に関する普及啓発

6 主たる事務所の状況

名称	公益財団法人 中山隼雄科学技術文化財団
----	---------------------

所在地	東京都中央区銀座三丁目 15 番 8 号 銀座プラザビル 6 階
-----	----------------------------------

7 主要な借入先及び借入額

該当事項はありません。

8 重要な契約に関する事項

契約名	相手方	契約の概要
賃貸借	(株)アミューズキャピタル	目的：財団事務所の賃借 金額：月額賃料：226 千円（保証金：2,400 千円） 期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
調査研究委託	静岡理工科大学	目的：振り込め詐欺対策シミュレーションゲーム（プロトタイプ）の研究開発 金額：1,450 千円 期間：平成 27 年 7 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日
調査研究委託	名古屋工学院専門学校	目的：リサイクル志向のゴミ拾いアクションゲーム（プロトタイプ）の研究開発 金額：50 千円 期間：平成 27 年 7 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日

9 会員に関する事項

該当事項はありません。

10 職員に関する事項

役職名	氏名	就任年月日	担当事務
事務局長	平林 秀明	平成 24 年 6 月 18 日	事業全般の統括
一般事務	横尾 志保	平成 8 年 9 月 1 日	一般事務

11 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催期日	議案の内容	審議結果
------	-------	------

出席者数		
第 18 回 6 月 12 日 理事 9 名 監事全員	決議事項 ①平成 26 年度 事業報告の承認 ②平成 26 年度 計算書類(案)の決定 ③東京大学図書館に対する助成の承認 ④評議員候補者 9 名の決定 ⑤第 4 回定時評議員会の招集 ⑥企画委員 6 名の選任 報告事項 ①業務執行理事の職務執行状況 ②平成 27 年度 調査研究テーマの公募及び結果	全部可決 全部了承
第 19 回 7 月 29 日	決議事項 ①平成 27 年度 調査研究の決定 ※書面上決議	可決
第 20 回 1 月 25 日 理事 9 名 監事全員	決議事項 ①平成 28 年度 調査研究者の決定 ②平成 27 年度 研究助成者の決定 協議事項 ①平成 28 暦年度 理事会の開催予定等 報告事項 ①業務執行理事の職務執行状況 ②平成 27 年度年間運用益の動向 ③東京大学図書館に対する助成	全部可決 了承 全部了承
第 21 回 3 月 17 日 理事 8 名 監事全員	決議事項 ①平成 28 年度事業計画及び収支予算書等の決定 ②NPO 法人 IGDA 日本に対する助成 ③選考委員 10 名の選任 ④企画委員 1 名の選任 協議事項 ①東京大学図書館に対する助成 報告事項 ①調査研究テーマ「夢のゲーム」アイデアの公募	全部可決 了承 了承

(2) 評議員会

開催期日 出席者数	議案の内容	審議結果
第 4 回 6 月 25 日 5 名	決議事項 ①平成 27 年度 計算書類の承認 ②評議員 9 名の選任 報告事項 ①第 4 期（平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで）の事業報告	全部可決 了承

(3) 企画委員会

開催期日 出席者数	議案の内容	審議結果
第 14 回 5 月 29 日 7 名	決議事項 ①平成 27 年度 調査研究テーマ入賞者の決定 ②平成 27 年度 調査研究課題の決定 協議事項 ①平成 28 年度 調査研究課題応募要領の概要 ②次回企画委員会の日時 報告事項 ①平成 27 年度 事業計画及び収支予算	全部可決 全部了承 了承
第 15 回 11 月 6 日 4 名	決議事項 ①調査研究応募者の提案テーマと企画委員会設定 課題との親和性の評価 ② IGDA 日本との協働による公益事業の承認 （協議事項を決議事項に格上げ） 協議事項 ①平成 27 暦年の活動スケジュール及び次回企画委 員会の日時 報告事項 ①平成 27 年度 中間決算の概要及び年間の収益見 込 ②平成 28 年度 調査研究及び平成 27 年度助成研究 の募集結果	可決 条件付可決 了承 全部了承
第 16 回	決議事項 ①平成 29 年度 調査研究テーマの公募	修正後可決

2月12日	②IGDA 日本との協働による公益事業 協議事項 ①平成28年度 調査研究事業計画 ②平成28暦年の活動スケジュール及び 次回企画委員会 報告事項 ①平成28年度 調査研究及び平成27年度助成研究の採択者決定 ②平成27年度年間運用益の動向	修正後可決 全部了承 全部了承
5名		

(4) 選考委員会

開催期日 出席者数	議案の内容	審議結果
第12回 6月19日 8名	決議事項 ①平成27年度 調査研究委託課題の決定 ②平成27年度 助成研究課題の決定 協議事項 ①平成27年度 助成研究課題応募要領の概要 ②次回選考委員会の日時 報告事項 ①平成27年度事業計画及び収支予算 ②平成26年度 事業報告及び計算書類	全部可決 全部了承 全部了承
第13回 11月6日 7名	決議事項 ①助成研究Aの2年目研究継続可否の審査 ②平成27年度 第1回 国際交流助成の採択者決定 報告事項 ①平成27年度中間決算の概要及び年間の収益見込 ②平成28年度 調査研究及び平成27年度助成研究の応募結果	全部可決 全部了承
第14回 12月18日 9名	決議事項 ①平成28年度 調査研究採択者の決定及び答申 ②平成27年度 助成研究採択者の決定及び答申 ③平成28年度 調査研究及び平成27年度助成研究の研究費決定及び答申 協議事項	全部可決 了承

	①平成 28 年度 委員会の活動予定 報告事項 ①研究助成中の研究者に関する異動事項	了承
--	--	----

12 許可、認可、承認等に関する事項

該当事項はありません。

13 保有株式の概要

項 目	内 容
株式発行会社名	セガサミーホールディングス株式会社
保有株式数	普通株式 950,000 株
発行済総株式数に占める割合	0.357%
株式原始取得日	平成 4 年 7 月 21 日
議決権の行使	なし（議決権行使には、理事会の承認が必要）
株式発行会社との関係	なし

II 役員等に関する事項

(1) 理事

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

地位	氏名	任期	重要な兼職の状況
代表理事 理事長	中山 晴喜	平成 28 年 6 月	(株)マーベラス 代表取締役会長 CEO
常務理事 事務局長	平林 秀明	同上	—
常務理事	中村 俊一	同上	(株)アミューズキャピタル 代表取締役社長
理事	稲増 龍夫	同上	法政大学 社会学部教授
理事	大熊 健司	同上	(特非)地方再興・個別化医療支援 副理事長
理事	中塚 尚子	同上	立教大学 現代心理学部教授

理事	坂元 章	同上	お茶の水女子大学 基幹研究院人間科学系教授
理事	出口 弘	同上	東京工業大学大学院 総合理工学研究科教授
理事	馬場 章	同上	東京大学大学院 情報学環教授

(注) 1 有澤 誠氏は、平成 27 年 6 月 25 日付で辞任いたしました。

(2) 監事

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

地位	氏名	任期	重要な兼職の状況
監事	鈴木 正明	平成 30 年 6 月	公認会計士・税理士 鈴木正明事務所所長
監事	田中 克郎	同上	弁護士 TMI 総合法律事務所代表パートナー

(3) 評議員

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

地位	氏名	任期	重要な兼職の状況
評議員	有澤 誠	平成 31 年 6 月	慶應義塾大学 名誉教授
評議員	出澤 正徳	同上	電気通信大学 名誉教授
評議員	伊藤 博史	同上	(株)トラスト・テック 監査役
評議員	稲見 昌彦	同上	慶應義塾大学大学院 教授
評議員	内田 伸子	同上	十文字学園 理事 筑波大学 客員教授
評議員	小野 忠彦	同上	(株)マーベラス 監査役
評議員	残間里江子	同上	(株)キャンディッド・プロデュース 代表取締役
評議員	長谷川良平	同上	産業技術総合研究所 研究グループ長

評議員	三浦 宏文	同上	東京大学 名誉教授 工学院大学 顧問
-----	-------	----	-----------------------

- (注) 1 出澤正徳、伊藤博史、稲見昌彦、内田伸子、小野忠彦、残間里江子、長谷川良平、三浦宏文及び有澤 誠氏は、平成 27 年 6 月 25 日開催の評議員会において選任され就任いたしました。
- 2 吉富 進氏は、平成 27 年 6 月 25 日付で退任いたしました。

(4) 役員等の報酬等の額

地位	人数	報酬等の総額 (千円)
理事	10	10,440
監事	2	210
評議員	4	120
合計	16	10,770

(注)

- 1 理事の報酬総額には、使用人兼務理事の使用人分給与は含んでおりません。
- 2 評議員の報酬限度額は、定款第 16 条において、総額 120 万円以下と定められております。
- 3 理事及び監事の報酬は、定款第 30 条に基づき、評議員会決議による「評議員及び役員等の報酬等及び費用に関する規程」において定められております。
- 4 当法人は、役員との間に責任限定契約を締結しておりません。

III 会計監査人に関する事項

当法人は、会計監査人設置法人に該当しておりません。

IV 業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議の内容の概要

当法人は、機関設計が簡素であることに鑑み、定款第 35 条第 2 項第 5 号の規定に基づく必要な体制の整備に代えて、平成 26 年 5 月 31 日付をもって理事会決議により前文と全 10 条からなる「行動規範」を制定し、全ての当法人の評議員、理事、監事、委員及び職員が遵守しなければならない意思決定と行動の基準としています。

V その他の法人の状況に関する重要な事項

該当事項はありません。